

第1学年 美術科学習指導案 【当日修正版】

1年2組 男子21名 女子19名 計40名

指導者 萩原 至道

【授業】13:10～14:00 会場 美術科教室（3階）

【協議会】14:15～15:25 会場 1年2組（2階）

1 題材名 君は何を感じる？ —ゴッホの作品の魅力を探ろう—

（学習指導要領に関する内容）第一学年

B鑑賞 (1) ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること。

〔共通事項〕 (1) ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。
イ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

2 題材について

(1) 題材設定の趣旨

鑑賞活動は、自分の見方や感じ方を大切にして、自然や生活の中の造形、美術作品などから主体的に造形的なよさや美しさなどを豊かに感じ取り、生活の中の美術の働きや文化についての理解を深め、幅広く味わうことのできる鑑賞の能力を育成する活動である。それは、知識なども活用したり、他者の考えをなども聞いたりしながら、様々な視点や考えをもって作品を捉え、自分の中に新しい意味や価値をつくりだす創造的な活動である。鑑賞の能力を育成することは、表現する能力とともに生涯にわたり美術を愛好する心情や美術文化の継承と創造への関心、生活や社会の中の美術と主体的に関わる態度など、学校教育にとどまらず、将来的に社会をよりよく生きるために必要な態度を養うこととなり、中学校美術科が目指す豊かな情操を培うことにつながる。

本題材では、フィンセント・ファン・ゴッホ（1853-1890）のアルル時代（1888-1889）に描かれた作品とそれらに似た場所や場面の他の画家の作品を比較鑑賞し、ゴッホの作品に見られる光り輝く色彩の美しさについて探っていく。オランダで生まれたゴッホは、北国の重く暗い光を反映した作品を描いていたが、南フランスのアルルに移り住んでからは、輝く太陽の強い光に魅せられて鮮やかな色や力強いタッチなど、現在評価されているゴッホ自身の描き方を獲得することになる。彼はただ感情的に筆を走らせていたわけではない。友人のフランス人画家、エミール・ベルナール（1868-1941）の回想には、ゴッホが毛糸のような身近な材料を用いて色彩の対比や組み合わせを考えるなど、色彩理論を理解し作品に取り入れていたことが分かる記述がある。より鮮やかに、より光り輝く作品を描くために、ゴッホがどのような色彩の工夫を行ったか理解するには、似た場所や場面の他の画家の作品を比較して鑑賞することで、それぞれの作品の印象やイメージに関わる造形的な要素の違いが明確に見えてくるだろう。生徒一人一人の見方や感じ方を大切にしながら、美術ならではの造形的な見方や感じ方から作品を捉えていき、さらに他の生徒との対話を通して、それぞれの生徒の思いや考えを聞くことで、生徒の見方や感じ方を広げていくことにつなげていきたい。

第1次では、ゴッホの「種まく人」（1888）とミレー（1814-1875）の「種をまく人」（1850）を比較鑑賞する。ゴッホの「種まく人」は、ミレーの「種をまく人」に由来する作品である。ゴッホは自らの理想とする姿をミレーに投影していて、ミレーの作品の主題を自作に応用した。ミレーの作品は、農村で働く人々を主題とした作品で、今回取り上げる作品は種をまく人一人だけを主役に、逞しい体躯を画面いっぱいに堂々と描いている。暗く穏やかな色調からは農村の貧しさや静謐さが

感じられる。それに対し、ゴッホの作品はミレーと同様の主題ではあるが、黄色く光り輝く太陽がともに描かれている。主題の種をまく人はポーズが変えられ、画面に占める面積も小さく、あまり躍動感を感じられない。しかし、色彩の面では太陽の黄色や地面の青とオレンジのタッチが対比の効果となり、鮮やかな情景が印象的な画面となっている。2点を比較鑑賞することで、ゴッホとミレーの作品から感じられる印象やイメージの違いと造形的な要素の関わりについて探っていき、形や色彩、構図、描き方などの造形的な要素の働きを理解したり、それぞれの作者の特徴や表現意図について明らかにしたりするなど、深い学びに至る鑑賞活動にしていきたい。

第2次では、ゴッホの「夜のカフェテラス」(1888)とドガ(1834-1917)の「カフェ・コンソール(犬の歌)」(1876-77)を比較鑑賞する。「夜のカフェテラス」は夜の空を青色で描き、その中でカフェに黄色い明かりが灯っている情景を描いた作品である。カフェから漏れた光が地面に当たり、薄っすら橙色に光る道や空には黄色く輝く星も見える。カフェテラスや道には人の姿も見え、穏やかな黄色い光も相まって、暖かく柔らかな雰囲気に含まれている。この作品は黄色・橙色と青色の補色の効果を生かし、夜であっても色彩の美しさや鮮やかさを画面に表したゴッホならではの作品といえる。一方、「カフェ・コンソール」は、夜のカフェで歌う女性の姿を描いた作品である。背景には緑の木と丸い白い光がいくつも見える。歌う女性にも白い光が下から当たっており、暗闇の中で浮かび上がる姿は不気味ささえ感じる。この2点を比較鑑賞することで、第1時ではそれぞれの作品の印象やイメージの違いがどのような造形的な要素に関わっているのか探るとともに、第2時では特に色彩に注目して鑑賞させ、ゴッホの作品から光りの輝きや鮮やかさが感じられる理由を考えさせたい。

(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、美術の授業に意欲的に取り組んでいる。鑑賞活動にも自分の考えをもって臨んでいるが、自分の考えなどを発表することに抵抗感をもつ生徒も少なからず存在している。

4、5月には「上履きズックのスケッチ ―〇〇なズック―」の制作を行っている。これは、ズックのスケッチで「オノマトペ」を表す題材で、ズックの大きさや配置、見る角度、数などの構図やズックの形、色彩、描画材料などを工夫し、自分が決めた「オノマトペ」をいかに表すか考えて描く題材である。それぞれアイデアスケッチを描いた後、グループ鑑賞を行い、テーマを表すためにはどのような構図にすればよいか互いにアドバイスを出し合った。

5月に本学級で行ったアンケート調査では、「美術の学習が好きですか」という問いに対して、「好き」・「どちらかといえば好き」と答えた生徒は85.0%であり、授業に見られる生徒の実態と合致した結果であった。また、「美術の学習で、鑑賞は好きですか」という問いに対して、「好き」・「どちらかといえば好き」と答えた生徒は66.7%であった。「好き」と答えた生徒の理由としては、「作品を見ることで、色々な考えをもつことができる」、「鑑賞したことを、自分の表現に生かすことができる」など、鑑賞活動のよさに気付くものであった。一方、「嫌い」と答えた生徒の理由としては、「特に何も感じない」、「感じたことを言葉で表すのは難しい」などであった。どの生徒にも、作品のよさや美しさが感じられる活動になるよう、作品を見る視点を明確にしたり、思いや考えを言葉で表せるよう資料を用意したりするなど、いろいろな指導の手立てを講じていきたい。

(3) 指導の構え

本題材では、生徒一人一人が見方や感じ方を大切にしながら、美術ならではの造形的な見方や感じ方から作品を捉えていき、さらに他の生徒との対話を通して、それぞれの生徒の思いや考えを聞き、生徒の見方や感じ方を広げていくことにつなげていくために、次のような手立てを講じたい。

まず、提示する図版は黒板だけではなく、生徒個人にもカラーの図版を配布することで、個人やグループ活動など、いつでも鑑賞の手がかりにできるようにする。また、個人で鑑賞する時間や互いに感じたことをグループで説明し合う時間を確実に確保し、作品との対話や生徒同士が対話でき

るようにして、それぞれの場面で考えを巡らせられるようにする。第1次では、それぞれの作品ごとに感じ取った印象やイメージと造形的な要素の関わりが構造的に理解できるワークシートの内容を考える。そうすることで、ワークシートを手がかりに、それぞれの作品から感じた印象やイメージを、他の生徒に根拠をもって説明することができると思う。また、聞く生徒にとっても内容を理解しやすくなり、他の生徒の違った見方や感じ方を把握することができ、生徒自身の見方や感じ方を広げることにつながるだろう。他にも、ワークシートに自分の思いや考えを記入する際には、自分の考えを黒色、他の人の考えを聞いて納得のいったものは青色、自分の考えを修正するときには赤色といったルールを示すことで、生徒自身が自分の考えの変容を確認できるようになると考える。このような形式のワークシートは、第2次の鑑賞活動でも造形的な要素に気付かせるために利用したい。第2次では、ゴッホの作品に見られる光りの輝きや鮮やかさについて探っていく。そのため、第1次での手立てに加えて、さらにゴッホの色彩の効果に気付くことのできる資料を用意する。「夜のカフェテラス」と比較鑑賞する「カフェ・コンソール」の図版だけではなく、第2時では「夜のカフェテラス」の青い色の部分を加工し、空を黒くしたり、昼間のように黄色にしたりするなどした図版も提示することで、黄色・橙色と青色の組み合わせだからこそ光り輝き、鮮やかに見えることに気付かせるとともに、配色の効果が実感できるようにしたい。

3 教科の本質に迫る授業づくり

「ゴッホの作品から光りの輝きや鮮やかさが感じられるのはなぜだろうか」と問うことで、造形的な要素の中でも色彩が作品に与える印象やイメージを捉えさせ、色彩や配色の効果に気付かせることができる。

鑑賞の活動では、生徒一人一人の見方や感じ方を大切にしながら、美術ならではの造形的な見方や感じ方から作品を捉えていく。さらに、他の生徒との対話を通してそれぞれの生徒の思いや考えを聞き、生徒の見方や感じ方を広げていく。第2次の第1時では、ゴッホの「夜のカフェテラス」とドガの「カフェ・コンソール」を鑑賞し、作品から感じられる印象やイメージを挙げていくことで鑑賞に対する興味や関心を高めていく。そして、似た題材でも、それぞれの作品から受ける印象が違うことに気づき、それがどこに由来するのかを探っていくことで、それぞれの作品に見られる形や色彩、構図、描き方などの造形的な要素における表現の違いによるものだと自覚できるだろう。さらに本時では「ゴッホの作品から光りの輝きや鮮やかさが感じられるのはなぜだろうか」と問うことで、造形的な要素の中でも色彩に視点を当てて作品をさらに深く見ていくことにつながると考える。その中でもう一度、ドガの作品と比較して見たり、資料として提示する様々なカラーバリエーションの「夜のカフェテラス」を見比べたりしていくことで、色彩が作品に与える印象やイメージを実感的に理解することができ、色彩や配色の効果に気付かせることができると考えた。そして、ここで獲得した色彩の視点は、これからの美術の創造活動にも生きてくるのではないかと考える。

4 題材の目標

- 形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。 (美術への関心・意欲・態度)
- ◎ 形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。 (鑑賞の能力)

5 全体計画（全3時間）

次	学習活動	評価規準〔共通事項〕	配時
1	<p>○ゴッホの「種まく人」とミレーの「種をまく人」を比較鑑賞する</p> <p>・「種まく人」と「種をまく人」を比較することで、作品から感じられる印象やイメージの違いと造形的な要素の関わりについて探る。</p>	<p>・<u>形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫など</u>に関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>【美術への関心・意欲・態度】 (観察)</p> <p>・<u>形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫など</u>を感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。</p> <p>【鑑賞の能力】 (観察・発言内容・ワークシート)</p>	1
2	<p>○ゴッホの「夜のカフェテラス」とドガの「カフェ・コンソール(犬の歌)」を比較鑑賞する</p> <p>・「夜のカフェテラス」と「カフェ・コンソール」を比較することで、作品から感じられる印象やイメージの違いと造形的な要素の関わりについて探る。</p>	<p>・<u>形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫など</u>に関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>【美術への関心・意欲・態度】 (観察)</p> <p>・<u>形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫など</u>を感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。</p> <p>【鑑賞の能力】 (観察・発言内容・ワークシート)</p>	1 / 2
	<p>○ゴッホの「夜のカフェテラス」とドガの「カフェ・コンソール(犬の歌)」を比較鑑賞する</p> <p>・「夜のカフェテラス」と「カフェ・コンソール」を比較することで、ゴッホの作品から光りの輝きや鮮やかさが感じられる理由を探る。</p>	<p>・<u>形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫など</u>に関心をもち、主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>【美術への関心・意欲・態度】 (観察)</p> <p>・<u>形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫など</u>を感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。</p> <p>【鑑賞の能力】 (観察・発言内容・ワークシート)</p>	2 / 2 (本時)

6 本時の学習（3 / 3時間）

(1) 指導目標

ゴッホとドガの作品との比較鑑賞を通して、ゴッホの作品に見られる光りの輝きや鮮やかさの理由を探ることで、造形的な要素の中でも色彩が作品に与える印象やイメージを捉え、色彩や配色の効果に気付けるようにする。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 前時で比較鑑賞した、ゴッホの「夜のカフェテラス」(作品1)とドガの「カフェ・コンソール」(作品2)の表現の違いについて振り返る。(4) 全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1の方が明るく、2は暗い感じがする。 ・1は暖かさ、2は冷たさを感じる。 ・1はカフェテリアが中心で2は女性が中心に描かれている。 ・光の当たり方の違いで、1は輝きを2は不気味さを感じる。 ・同じ夜だけど、1はカラフルで鮮やか、2はあまり鮮やかではない。 ・1は筆の跡が見え、メリハリがある感じだが、2はぼやけた感じ。色についても同じ。 <p>2 学習課題を確認する。(1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に出た意見から、作品から感じられる印象やイメージの違いと形や色彩、構図、描き方、材料など、様々な造形的な要素の関わりについて確認する。 ・造形的な要素の中でも色彩に関わる意見が多く見られることに気付かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>ゴッホの色づかいにはどのような工夫が見られるだろうか。</p> </div>	
<p>3 作品1から光りの輝きや鮮やかさが感じられるのはなぜかを考える。(5) 個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るい色を使って描いているから。 ・背景が暗いので光の黄色がより明るく感じるから。 ・作品1の方が明るい色の面積が広いから。 ・黒色があまり使われていないから。 ・鮮やかに感じられる色の組み合わせを考えて描いているのではないか。 ・作品2は描き方がはっきりしていないのでぼやけて見えるが、作品2はタッチがはっきりとしている。描き方が関係しているかも。 ・作品1は明るい黄色と暗い青色が隣り合わせになっていてメリハリのある感じがでている。それが「輝き」になっているのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々にカラーの図版を配布し、生徒一人一人が作品の内容を捉えられるようにする。 ・ワークシートに記入する際には、自分の考えを黒、他の人の考えで納得のいくものは青、自分の考えを修正するときには赤といったメモのルールを示しておき、随時感じたことや考えたことなどをメモできるようにして、自分の考えの変容を確認できるようにする。 ・作品2との比較から見つけた違いから予測するよう促す。 ・ワークシートを用いて、形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象を視点に光りの輝きや鮮やかさがどこから感じられるか分析させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・<u>形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫など</u>に関心をもち、主体的に感じ取るようとしている。</p> <p style="text-align: center;">【美術への関心・意欲・態度】 (観察)</p> </div>
<p>4 グループでゴッホの色彩について意見交換する。(5) グループ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの意見交換の様子を把握し、意図的指名に生かす。

<p>5 グループで出た意見を全体に発表する。(15) 全体</p> <p>6 ゴッホの作品のよさや美しさについてまとめる。(20) 個人・全体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暗い夜でも賑やかな感じを表すために、ゴッホは明るさだけでなく、温かみもある黄色にこだわったのだと思う。 ・ゴッホが感じたカフェテラスでの人々のにぎわいや温かみ、澄みきった星空を表すために、カフェテリアも空もどちらもより鮮やかに感じられる黄色と青色の組み合わせで描いたのだと思う。 ・ゴッホは人や建物などをあまり細かく描いていない。これは、見る人に形よりも色に注目してほしいかと思う。ゴッホは色に感動したのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモのルールに従って、グループの人の考えを聞きながら、自分の考えを変えていってもよいことを伝える。 ・発表時には、生徒に電子黒板やタブレットなどを利用させ、発表内容が全体に伝わるようにする。 ・ゴッホの作品の光り輝く美しさや鮮やかさは、どのような色づかいの工夫から感じられるのか適宜問い返すことで、考えの深まりを促す。 ・生徒の意見は、造形的な要素ごとにまとめていき、構造的な板書になるようにする。 ・色々なカラーバリエーションの「夜のカフェテラス」を提示することで、対比や配色の効果に気付かせ、ゴッホの色彩の工夫に迫らせるようにする。 ・色相環の資料を用い、補色対比をおさえる。 ・ゴッホが作品に込めた思いにも触れて、これまで探ってきた作品から感じられる印象やイメージの違いと形や色彩、構図、描き方、材料など、様々な造形的な要素を踏まえて、作品のよさや美しさについて自分の考えをまとめるよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、構図、描き方などの特徴や印象、よさや美しさ、作者の心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わっている。 【鑑賞の能力】 (観察・発言内容・ワークシート) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴッホが色チョークや毛糸などの身近な材料を用いて、色彩の対比や組み合わせを考えるなど色彩の工夫を行っていたようであることを伝え、ゴッホの色彩に対する探究心について紹介する。
---	--

7 授業観察の視点

- ・ 2つの作品を比較して鑑賞したことは、生徒がそれぞれの作品の印象やイメージの違いがどのような造形的な要素に関わっているか理解し、自分の見方や感じ方を広げる上で有効であったか。
- ・ ゴッホの「夜のカフェテラス」のカラーバリエーション資料を提示したことは、ゴッホの色彩の工夫を理解する上で有効であったか。

【主な参考文献】

- パスカル・ボナファー『ゴッホ 燃え上がる色彩』創元社 1990
- 関府寺 司『西洋絵画の巨匠② ゴッホ』小学館 2006
- 安井 裕雄『もっと知りたい ミレー 生涯と作品』東京美術 2014